

2017年10月22日
田村、森崎、菊池

NBAA-BACE 2017 出張報告

1. 開催期間 : 2017年10月10日～12日
2. 開催場所 : 米国ネバダ州ラスベガス
Las Vegas Convention Center 及び Henderson Executive Airport
3. 出張者 : JBAA : 田村副会長、森崎事務局長、菊池事務局次長
JCAB : 航空局総務課 政策企画調査室 / 坂田課長補佐、
福澤調査第二係長



4. 出張期間中の JBAA 活動概要
 - (1) JBAA ブースの出展 (協賛会員 11 社)
 - (2) 航空局政策企画調査室によるメディア取材支援
 - (3) 航空局政策企画調査室による航空機メーカーとの面談支援
 - (4) Static Display における実機視察
 - (5) 藤野 Honda Aircraft Co. 社長へ表敬訪問
 - (6) Ed Bolen NBAA 会長への表敬訪問
 - (7) 会員有志による FBO 訪問 (Washington 州 Boeing Field/King County 国際空港)
5. NBAA-BACE 2017 の規模他
 - 出展社数 : 約 1,100 社
 - 展示航空機数 : 約 100 機 (Convention Center 屋内展示機を含む)
 - 来場者数 : 約 26,000 人 (NBAA が当初予想していた 27,000 人を下回った模様)

* 10月10日に行われた Opening Session で Ed Bolen 会長は「今年は色々な意味で特別な年になった。NBAA 創設 70 周年祝う一方で、開催 9 日前に当地で銃乱射事件があった。このショー開会を前に NBAA は Las Vegas の被害者基金に対して \$10,000 を寄付させてもらった。我々は力強い Las Vegas を支持する。」との表明をした。



Opening Session (右から二人目が Ed Bolen 会長)

6. 活動内容

(1) JBAA ブースの出展

今回も昨年の NBAA と同様に出展 4 社 (JBAA、JCAB、NAA、愛知県) のブースを「Japan Pavilion」として、スクエアなスペースに一体化したブースを設置した。ブースは会場ほぼ中心で、注目度の高い HondaJet のブースにも近く、来場者の動線に面していて視線に入りやすい場所であった。

JBAA ブースは会員 11 社の協賛を得て出展を行った。協会パンフレットの他、協賛各社のパンフレット等を配布した。

また、今回はブース背面の壁面に協賛 11 社のロゴを配置して、従来以上の注目度アップを図った。併せて 4 月の ABACE に続いて JNTO の協力を得て「JAPAN」をイメージするポスターの掲示を行った。





* JBAA ブース出展への協賛企業・団体（順不同）

- ①朝日航洋(株)
- ②中日本航空(株)
- ③静岡エアコミュニティ(株)／(株)フジドリームアビエーションエンジニアリング
- ④(株)ジャプコン
- ⑤中部国際空港(株)
- ⑥丸紅エアロスペース(株)
- ⑦双日(株)
- ⑧エアバス・ジャパン(株)
- ⑨東京国際空港ターミナル(株)
- ⑩静岡県
- ⑪佐賀県

(2) 航空局政策企画調査室によるメディア取材支援

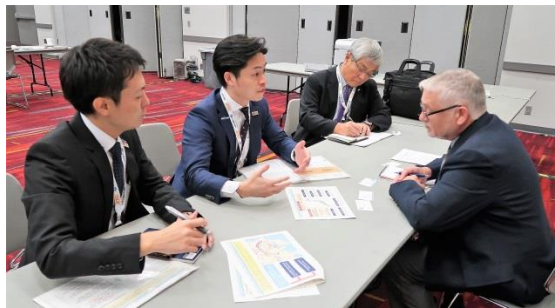
坂田課長補佐及び福澤係長により、ABACE における取材以降の我が国の BJ 受け入れ体制の改善点（新千歳空港、富山空港の受け入れ時間の延長）を中心とした内容を以下の 2 社に対してプレゼンを実施した。内容がニュース性に乏しいことから、掲載記事は総花的なものとなった。

① AVIATION WEEK NETWORK 社の取材（10月9日）

→ 同社が発行する 10月10日付けの「Show News」に記事が掲載された。

②Aviation International News 社 (AIN) の取材 (10 月 10 日)

→ 同社が発行する 10 月 12 日付けの「NBAA Convention News」に、別途取材のあった愛知県のインタビュー内容と合わせて記事が掲載された。



(AIN 社の取材を受ける左から JCAB 坂田課長補佐、福澤係長)

(3) 航空局政策企画調査室による航空機メーカーとの面談支援

坂田課長補佐及び福澤係長の事前の要望により、以下のメーカーと面談を行った。

- ①Airbus Corporate Jets
- ②Dassault Aviation
- ③Embraer Executive Jets
- ④BOMBARDIER
- ⑤TEXTRON AVIATION

局から将来における航空機の AI 化や、昨今の北東アジアの政治情勢が営業活動に影響を与えているかなどについて質問がなされた。一方、Dassault Aviation の Delestrade 氏 (Senior Vice President North East Asia)

から、NRT のカーフェュー問題、スロットの取得しにくさ、制度上の問題等我が国の課題について具体的に意見表明があった。また、ヘリの利便性を強調したものの、例えば静岡空港から都心への利用を例に出して、この距離は時間がかかりすぎる。ヘリの利用は飛行時間 30 分までが妥当とも主張した。

この様なメーカー側から見た我が国の参入障壁に対する意見の吸い上げを協会としても取り組む必要があると感じた。



(4) Static Display における実機視察

上記のメーカーとの面談に併せて、時間の許す範囲で視察を実施した。
今回の NBAA では、Gulstream G600、Bombardier Global7000、Embraer Phenom300E
の実機 3 機が新たに紹介されて注目の機種となった。



(機内見学を待つ人たち)



(G7000 の Experimental 4号機)

(5) 藤野 Honda Aircraft Co. 社長へ表敬訪問

特記事項として、藤野社長より今年の ABACE2017 のあとに日本でデモフライトを実施した経験から、運航コストの安い Hondajet にとって、日本は、着陸料他運航コスト以外の附帯コストが非常に高いと指摘を受けました。実際に米国で運航されている Hondajet の経験からの指摘と考えます。本件、調査、確認をして藤野社長へ報告をさせて頂く事と致しました。

Meeting の最後に藤野社長より、Hondajet のような小型の BJ が自由に日本の空を飛べるような、“国の交通システム変革”を是非とも実行したいとお話を頂きました。

(6) Ed Bolen NBAA 会長への表敬訪問

冒頭、田村副会長から NBAA 創設 70 周年について祝意を伝えた。

Bolen 会長から、NBAA として東京オリンピックに向けたサポートと情報の共有化をしていきたいとの意思表示があった。

また、同席した Doug Carr 氏からは、2018 年 3 月に開催する International Operators

Conference と 4 月の ABACE が情報提供の場に利用してはどうかとの提案があった。



(正面右が Ed Bolen 氏、左は Doug Carr 氏)

- (7) 会員有志による FBO 訪問 (Washington 州 Boeing Field/King County 国際空港)
NBAA 会場入りの前(10 月 8 日)に、東山常務理事のご協力をいただき、以下の FBO
を訪問した。訪問は協会 2 名(森崎、菊池)の他、3 社から 6 名が参加した。

FBO : Signature Flight Support

面談者 : Mr. Trent Brownlee (General Manager)

Ms. Charity Catalfomo (Safety and Security Program Manager)

滑走路 : 10,000ft×1、3,000ft×1

管理者 : King County

運用時間 : 24 時間

年間便数 : 180,000 便

FBO 数 : Signature の他 2 社

当空港の特色 :

- ・ Boeing 社が最大テナントで、完成機のテスト飛行基地になっている。
- ・ 国際線定期便はない。国内線は小型機による運航のみ。
- ・ 当空港は SEA-TAC の北 10km 程度に位置していることから、管制が traffic の調整を行って運用している。
- ・ Microsoft 社、Starbucks 社の他、Costco 社や Amazon 社の物流拠点にもなっている。
- ・ 国際運航の BJ の税関検査等は都度 FBO で実施する。
- ・ SEA-TAC にも Signature の FBO あるが、取り扱いは Boeing Field の方が多い。

以上